

いっぽだより

はじめのいっぽ
2021年6月28日

連日、20℃後半の暑い日々が続いたと思ったら、ここに来て20℃を下回る数日です。そんな中でも子どもたちは、元気いっばいに走り回り、いっぽの熱気は確実に夏に向かっていくようです。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？

「いっぽだより」が2011年8月から「はじめのいっぽ通信」として刊行されて、まる10年。コロナ禍において行事が思うように出来ない中、それぞれの年の6月、何をやってきたのかページをめくってみると幼い頃の懐かしい子どもたちの姿が次から次へと出てきて、つい見入ってしまいました。また、いっぽを卒業していった子も今や20歳!! 「どうしているのかなあ〜」コロナ禍が落ち着いたなら「同窓会」なんてどうかな?と、めくるページの目的からどんどん外れていきましたが、たまにはこんな時間も必要だなアと勝手にホッコリとしていました。

さて、6月といえば運動会。去年はコロナ禍で中止となり、子どもたちから一つの思い出がなくなってしまいました。今年は見学制限があるとはいえ開催の様子・・・少しずつ平常に戻れるよう祈るばかりです。はじめのいっぽも本来であれば6月「いっぽ食堂」を外部のお客さんをお呼びして開催しているのですが、先を見越せない行事に準備もままならず、計画を立案すらできていない状況となっております。

今回、過去のいっぽだよりを見てホッコリだけではなく「こんなじゃいけない!!」「もっと工夫すれば出来るはず!!」と、いっぽの卒業生からメッセージをもらったように思います。

さて、「気持ちを新たに 2021年後半戦 ガンバっていきましょう!!」



2012. いっぽ冬祭り



2014. いっぽ夏祭り



2018. いっぽ祭り



2018. いっぽ食堂

ある日曜日、書店散歩をしていると、“耳の体操”というタイトルの本が目にとまりました。耳のツボを刺激する健康法のことかな?などと手に取って、ページをめくると作者の言葉が書いてありました。普段何気なく耳に入って来るたくさんの音。その音を意識をして聞き、音の聞き方を鋭くすることで、意思伝達する能力が磨かれ、他者とのコミュニケーションがとりやすくする狙いがあるとのこと。即購入!!家に帰ってじっくり読んでいくうちに、「これは、いっぽの子ども達と楽しくできる事ばかり!!」と、すぐにでも試したくなりました。そして、月曜日“音を出さないで、紙を裏返す”をやってみました。音が鳴らないか、子ども達は息もしていないのでは?と思うほどシーンと静まり返り、お友だちが挑戦するのを見守ります。でも、意外とできないんです。もちろん私も挑戦しましたが、紙、音がでるんです(笑) ご家庭でもぜひお試しください。

また、1分間と時間を決め、“何種類の音を発見できるか”にも挑戦。鼓動が聞こえそうなほど静まり返るなか、「木の葉っぱが揺れる音」や「テーブルを拭いているときにきしむ音」など普段、気にも止めないことに意識を向けられる子ども達でした。今後も、音を意識した遊びを子ども達と楽しんでいきたいと思っております。



文 山本 寿果

日々の活動

外活動

外の空気がとても気持ちよく、日も長くなっているので ついつい遅くまで遊んでしまいます。そんな遊びの成果を披露できる時間を作ろうと、竹馬と三輪車そしてボール運びのリレーを2チームに分かれ競い合いました。竹馬では、あせる気持ちと手と足をコントロール！ 三輪車では、バランスを崩してこけても、あきらめず再挑戦する強い心！ ボール運びでは、ボールバランスと走る方向とを交互に見る判断力！ 真剣な子どもたちの姿に、そして自分の出番が終わると大きな声で応援している姿に大感動です。



6月に入り、水遊びも始まり、その中でも手押しポンプが大人気！ 道具から伝わる感触と力具合のバランスが揃わないと汲み上がりません（とってもコツがいきます）。こんな小さな体験からも「人と人に対する力加減などを学んでゆくのかなあ〜」などと大げさに考えてしまうのでした。「でも大切な事だよなあ〜・・・」

その他にも、最近大人気のバトミントンや途別の炊事活動など無理せずこどものペースで日々楽しんでいます。



室内活動



室内活動では、「手作りカルタ」を子どもの力だけで作り上げました。「**み**、みんなのいっぼ」なんてカードを見つけてスタッフも嬉しくなっていました。一枚一枚手作りのカルタは何物にも代えがたい素敵な作品です。私たち大人も、子どものこの発想や気持ちを忘れずに、子どもへ手作りの温もりを手渡して行きたいものです。

いっばに「ただいまー」と帰ってくる子ども達に、それぞれがホッとして過ごせるよう宿題などは強制していません。でも仲間がいると宿題も楽しいようで自分から始めています。上級生から教えてもらったりと安心できる環境となっているようです。またホワイトボードの落書きコーナーも室内活動ではちょっとした人気です。



外活動

今月からみんなの仲間入り、はると君です。一番年下ですが、「よろしくね！」



爽やかな北海道の6月こんな季節を天真爛漫に駆け回る子どもたちを見ているだけでもとっても幸せな気分になってしまいます。サア大人も負けちゃいられません。子どもたちに負けないよう大空へ向けてジャンプ!!

PC や TV 画像の中だけでは解らない、手に触れて自然の中を駆け回ってこそ感じられる本物を小さい頃から経験することで、脳の神経回路が活発に働き、直感力・五感が育つと信じています。



水遊びの季節がやってきました。水に濡れたり、泥んこになったりと、その時に感じた水の冷たさや、泥の感触、水にぬれた砂のにおいなどいっぱいいっぱい経験して下さいね。

3枚の写真は、羊との距離を子ども自身で判断し少しずつ縮めていくカットです。ついつい大人が手助けしてしまいがちですが、じっと見ていると、腰を曲げて視線を合わせてロープがいっぱい張る位置で近づき、後ろから手をまわし、なでる。教えられたわけでもないのに子どもが自分で安全を判断し動くことに「大人が手助けしちゃいけないなあ」と、待つことの大切さをつくづく感じるひとときでした。



室内活動

今月、いっばにエプロンシアターがやってきました。エプロンのポケットからいろんなものが飛び出し物語がどんどん進んでいきます。次は何が飛び出すのか、みんなの目がエプロンにくぎ付けです。



室内では、じっくりと手指先を使う制作活動を行っています。集中力がどんどんついてきて、完成した作品がプレゼントになったり、遊びの道具になったりと、作り上げた物がちゃんと目的を持っていることを実感しているようです。